



京都部会(第 25 回)

日 時: 2014 年 6 月 27 日(金) 19:00~21:00

場 所: 同志社大学 良心館

参加者: 篠原総一(同志社大学)、上畑直久(京都市総合教育センター)、西村理(同志社大学)、川上敏和(同志社大学)、奥村光太郎(龍谷大学非常勤講師)、下村和平(山城高校)、人見哲也(数研出版)、

絹川温子(同志社大学)【順不同】

【内容要旨】

(1) 経済教育ネットワークの篠原総一代表者は 今回自宅からのフェイスタイムによる出席であった。

まず、司会の西村から 8 月に実施される「先生のための夏休み経済教室」の申し込み状況について報告がなされた。また、篠原氏から前回に続いて各部会で持ち込まれた開発教材や資料などをホーム・ページに立ち上げるまでの手順が示され、参加者に協力の依頼があった。

(2) 次に、上畑氏が公的分野での単元名「生産のしくみと金融」における「働く人をめぐる問題」について報告された。この単元の目標は、「働くということは何か」について、自分の考えを説明できるようにすることである。そこで、弁護士と共同で作成された教材が紹介された。教材の内容は店長がどのような場合にアルバイトを解雇できるどうかを生徒たちに発問しながら進めていく内容であった。報告の後、それについての意見交換がなされた。まず第 1 に、この教材では企業が強く、労働者は弱い立場で話が進められているが、現実には労使が逆の立場になることも教える必要がある。第 2 に、教材では解雇するか否かの二者択一的な選択になっているが、例えば「ワークシェアリング」のような第三の道もあることを考えさせることも大切である。第 3 に、この教材は解雇の問題に焦点を当てて授業が進められているので、生徒たちにはとても理解しやすいと思われる。別の例としては、女性労働の問題に焦点を絞った教材作りも考えられるのではないか、などの意見もでた。

(文責:西村理)

次回開催予定: 2014 年 10 月 3 日(金) 19:00~21:00 (同志社大学 良心館)